

【学校教育目標】自ら学び ともに高め合う 心身ともに元気な児童の育成

全ての子供の学力向上をめざして

～全国学力・学習状況調査結果分析と取組～

令和6年4月18日に、全国の小学校6年生及び中学校3年生を対象に、全国学力・学習状況調査が実施されました。今年度の小学校6年の実施教科は、国語と算数でした。また、児童質問紙調査(学校や家庭での生活・学習に関する状況調査)も実施されました。

全国学力・学習状況調査の目的は次のとおりです。

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

一人一人に確かな学力を身に付けることは、学校の使命です。本校では、調査結果の分析を行うとともに、課題解決に向けての方策について協議し、全職員で取組を進めています。

以下のとおり、各教科及び児童質問紙調査の結果分析及び「学校が取り組んでいる(取り組んでいく)こと」を整理しました。学力定着だけでなく、学力を身に付けるための基盤となる生活習慣や学習習慣の定着については、保護者の皆様の協力を得ながら取組を進めていきたいと考えています。

令和6年度全国学力・学習状況調査結果分析

国語は全国平均と同程度で、算数は全国平均を下回る結果となりました。

次の表は、教科の内容・領域別に、本校と全国の平均正答率の差を表しています。

※上回る…◎(+5%以上)、○(+1%以上+5%未満)

同程度…＝

下回る…△(-1%以上-5%未満、▲-5%以上)

教科	内容・領域	差
国語	言葉の特徴や使い方に関する事項	＝
	情報の扱い方に関する事項	△
	我が国の言語文化に関する事項	○
	話すこと・聞くこと	＝
	書くこと	○
算数	読むこと	△
	数と計算	△
	図形	△
	変化と関係	△
	データの活用	＝

【国語の結果分析】

- ・情報と情報の関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解できている。
- ・読書が、自分の考えを広げることに役立つことを理解できている。
- ・書くために材料を分類したり関係付けたりして伝えたいことを明確にすることができる。
- ・文章を読んで自分の考えをまとめる際、示された条件を満たして記述することができる。
- ・日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討することに課題がある。
- ・登場人物の相互関係や心情を捉えることや、人

物像を具体的に想像することに課題がある。

- 全国よりも無解答率が高い。

【算数の結果分析】

- 直方体の見取図について理解できている。
- 角柱の面の数について、底面や側面に着目して説明することができる。
- 数量関係を口を用いた式に表すことができる。
- 速さの意味を理解したり、道のり・時間・速さの関係を捉えたりすることに課題がある。
- ボールがぴったり入る箱から、球の直径と立方体の辺の長さの関係を捉えることに課題がある。
- 円柱の展開図について、側面の長方形の横の長さの求め方の理解に課題がある。
- 全国よりも無解答率が高い。

【児童質問紙の結果分析】

全国平均と比較して課題が見られる項目が多くありました。

□全国平均と比較してよい傾向

- 自分にはよいところがあると思う。
- 人の役に立つ人間になりたいと思う。
- 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え工夫することができる。
- 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う。
- 国語・算数の勉強が好きである。

□全国平均と比較して気になる傾向

- 朝食を毎日食べている。
- 毎日同じくらいの時刻に寝起きしている。
- 平日に1日当たり4時間以上ゲームやスマートフォンなどでSNSや動画視聴をしている。
- 携帯電話やスマートフォンなどの使い方について、家の人との約束を守っている。
- 人が困っているときは、進んで助けている。
- 自分と違う意見について考えるのは楽しい。
- 友達関係に満足している。
- 国語の授業で、違う点や似ている点を意識したり、図で示したりしながら情報を整理している。
- 算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考える。

学校が取り組んでいる(取り組んでいく)こと

全ての学年で、基礎学力の定着を図る取組と授業改善を進めていきます。

◆基礎学力の定着

- * 朝学習（学力課題に応じたプリント学習、タブレット活用、読解ドリル）
- * 漢字の定着と活用（小テスト）
- * 語彙の習得（学習用語・語彙集・国語辞典の活用）
- * 補充学習（個別の課題に応じた指導）
- * 音読（読む速さ）
- * 家庭学習の習慣化（自主的な学習法）

◆授業改善

- * 「見通す」「取り組む」「振り返る」を授業展開の基本とし、子供が自己調整しながら学習を進め、身に付いた力を自覚できる授業づくりをめざします。
- * 図や表を含む様々な資料を関連付けて読み、自分の考えを記述する活動を充実させます。
- * 文章を詳細に読む授業から、目的に応じて文章を俯瞰的に読んだり、構成や要点・要旨を捉えたりする授業への転換を図ります。
- * 話したり聞いたり話し合ったりするスキルを、各教科等で活用する場面を意図的に設定します。
- * 各教科等において、例文に倣って説明する活動、字数や内容などの条件に合わせて書く活動の充実を図ります。
- * 低学年から、数の概念を定着させるとともに、「もとの数」を捉える指導を徹底します。
- * 図形について、観察や構成などの活動を通して学習内容の定着を図るとともに、図形と式を関連付けて説明し合う活動を取り入れます。
- * 情報活用力を育成するために、ICTを効果的に活用した授業を追求します。

◆読書習慣の定着と読書活動の充実

子供の興味・関心を広げる自由読書・味見読書とともに、各教科等の授業において意図的な読書活動を設定します。